

第12回 藤田弘基写真コンテスト 入賞作品集

第12回 藤田弘基写真コンテスト

- ◇主催 : 藤田弘基写真コンテスト実行委員会
- ◇共催 : 宮古市
- ◇後援 : 宮古市教育委員会・NHK盛岡放送局・IBC岩手放送・
テレビ岩手・岩手めんこいテレビ・IAT岩手朝日テレビ・
岩手日報社・宮古民友社・月刊みやこわが町・みやこハーバーラジオ
- ◇募集期間 : 令和7年5月1日 ~ 10月31日
- ◇応募総数 : 189点
- ◇入賞数 : 24点

入 賞 者 ・ 作 品 一 覧

	氏 名	住 所	作 品 名
藤田弘基賞	茂 市 佐枝子	宮古市	窓の向こうは「つるばら村」
優秀賞 (3点)	斎 藤 浩 三	青森県野辺地町	あばれ太鼓 ①「いざ!」②「乱れ打ちの華」③花火と共演
	武 藤 章	宮古市	朝もやの中を
	鈴 木 耕 介	盛岡市	燦爛
奨励賞 (7点)	古 館 雄 斗	宮古市	春風と共に、桜と鯉のぼりの道
	阿 部 洋 一	宮古市	厳冬三王岩
	高 橋 弘	花巻市	火消しの年始
	菊 池 靖	宮古市	ティラノ、給水中
	岩 谷 眞	宮古市	まほろばの夜明け
	福 士 麻奈美	山田町	青野滝漁港でリフレッシュ
	鈴 木 耕 介	盛岡市	秋満開
佳 作 (12点)	高 橋 弘	花巻市	船渡御の日
	北 村 真 一	宮古市	神楽と祭り娘
	山 内 浩	宮古市	紅葉に染まる神社
	佐々木 正 行	宮古市	撮れた?
	小和田 恭 子	宮古市	颯爽
	増 井 恒 彦	宮古市	鮎掛けの頃
	澤 口 健 治	宮古市	紅に染まる日出
	菊 地 繭 子	宮古市	はじめての「お花見、雪遊び、お月見」
	菊 池 靖	宮古市	光を放つ、ひとりの銀河
	白 間 正 人	宮古市	標高 455m からの目線
	岩 谷 眞	宮古市	冬晴れの薬師溪流
	福 士 麻奈美	山田町	まつり娘は高校でも大活躍
U-18 特別賞	竹 山 椿 姫	宮古市	月夜に溶けて

※敬称略、賞ごとの並びは受付順

このコンテストは、写真家藤田弘基氏の功績を顕彰するとともに、
宮古市の自然の素晴らしさをアピールすることを目的としています。



写真家 ふじたひろき
藤田弘基氏

1939年、東京都新宿生まれ。1966年、高校時代から憧れ続けたヒマラヤに初めて遠征する。

1970年から75年までに全国を行脚し蒸気機関車の取材を行う。その後すぐ、ネパールヒマラヤに旅立ち、35年に渡り、ユー

ラシア大陸の山岳地帯で繰り広げられる数々のドラマを大型カメラで取材する。多くの写真集を出版すると同時に、写真展を開催。2001年、NHKスペシャル「星明かりの秘境カラコルムー山岳写真家藤田弘基の世界ー」が放映され話題となる。

取材の合間をぬい、妻の童話作家・茂市久美子氏の生まれ故郷（旧新里村茂市）をたびたび訪れ、茂市を第二の故郷とし、宮古市の豊かな自然を撮影した。

2012年9月没。

【審査員総評】

改めて講評を書くために入賞された作品たちと向き合いましたが、なかなかバラエティに富んだレベルの高い作品が並んだと思っています。フォトコンテストでの作品の良し悪しは単に技術面だけでなく、何か選者のハートをつかむポイントが必要だと思っています。今回の藤田弘基賞に選出した茂市佐枝子さんの「窓の向こうは「つるばら村」」はスマホによる撮影ですが、帰省した妹を想い、故郷を想う妹の思いを代弁して優れた組写真だと思いました。またU-18特別賞の竹山椿姫さんは2年連続の受賞ですが、今回の作品の世界観はレベルも高く、U-18の枠を超えても上位に位置付けられる作品で、今後が楽しみです。



きくちてつお

審査員 写真家 菊池哲男氏

1961年東京生まれ。立教大学理学部物理学科卒。

山岳写真家として様々な山岳・カメラ雑誌やカレンダー、ポスターなどに作品を発表。

主な写真集に『白馬 SHIROUMA』、『白馬岳 自然の息吹き』、『アルプス星夜』、『鹿島槍・五竜岳 一天と地の間にー』（共に山と溪谷社）、『山の星月夜ー眠らない日本アルプスー』（2008年）（小学館）など。

東京都写真美術館をはじめ、各地で大規模な写真展を開催。東京都写真美術館収蔵作家。

2007年、長野県白馬村和田野の森に菊池哲男山岳フォトアートギャラリーがオープン。

フランスのアウトドアブランド「ミレー」のテクニカルアドバイザー。

公益社団法人日本写真家協会（JPS）会員、日本写真協会（PSJ）会員。

<https://www.t-kikuchi.com/>



藤田弘基賞



「窓の向こうは「つるばら村」」 茂市 佐枝子（宮古市）

【審査員選評】

この組写真を見たとき、とても自然体でよく構成されていたので茂市久美子さんに相当近い存在の方が撮られたのだなと思いましたが、まさかお姉さんとは思いませんでした。なぜならこのコンテストを担当して7年になりますが、過去1度も応募されたことが無かったからです。こういう自然環境の中で育ってきたからこそ、この「つるばら村」シリーズは生まれてきたのでしょうか。家族だからこそ撮れる優れた作品だと思いました。

【撮影者コメント】

ばらの季節に帰省した妹をスマホでとりました。彼女の書く童話はいつも故郷の茂市とその周辺が舞台になっています。

【撮影場所】

茂市

優 秀 賞



「あばれ^{だいこ}太鼓 ①「いざ！」②「乱れ打ちの^{みだ}華^う」③花火^{はな}と共演^{はなび} 齋藤 浩三 (青森県野辺地町)^{きょうえん}

【審査員選評】

「あばれ太鼓」とくれば坂本冬美さんの歌。あれは男性が主人公でしたが、こちらは女性が写っている作品が 2 枚あり、女性上位かも。ちょっと調べてみたら、宮古あばれ太鼓として岩手県内の地域イベントや観光イベント、結婚式にも演奏されているようです。組作品は 3 枚ともカッコ良い作品が並びますが、2 枚目のこちらを向く女性と背中を見せる後ろ姿の作品がとても力強く、緊張感も伝わって印象に残りました。

【撮影者コメント】

- ① 初めて観ました。迫力に圧倒され、夢中でシャッターを切りました。
- ② 女性の太鼓奏者の穏やかで力強い演舞が撮影できたと思います。
- ③ タイミング良く撮影できました。

【撮影場所】

出崎埠頭沖 海上花火大会

優 秀 賞



あさ なか
「朝もやの中を」 武藤 章（宮古市）

【審査員選評】

朝もやの中を登校する生徒たちだそうです。セピア調仕上げた作品はとても雰囲気が出て、まるでパリの郊外を思わせるようです。特に右側に入れた木の存在感が抜群で、太い幹と大きく左に伸びた枝とで額縁構図となって、まさに舞台となる空間を作り、ちょうどそこに学生たちが入り込むという構成が見事です。狙っていたのか、視界がはっきりしないという条件の日によくミラーレスカメラを持ち歩いていたなあと感心しました。

【撮影者コメント】

朝もやの中を登校する生徒たち。

【撮影場所】

西ヶ丘

優 秀 賞



さんらん
「燦爛」 鈴木 耕介（盛岡市）

【審査員選評】

燦爛（さんらん）とはきらびやかに美しく輝く様子を意味し、まさにこの情景にピッタリな題名です。枝に霧氷が付いて見るからにキンキンに冷え込んだ朝、太陽から差し込む優しい光が川面を照らし、新たな希望を感じさせます。画面構成も抜群で、縦構図としたことで上下方向にしっかりスペースが確保でき、左上に置いた太陽からの光線や木の映り込みも入り、良く表現できています。心が満たされそうな作品です。

【撮影者コメント】

ダイヤモンドダストが出るほど寒い朝、寒さを忘れるほど美しい光を見た。

【撮影場所】

区界第2地割

奨 励 賞



はるかぜ とも さくら こい みち
「春風と共に、桜と鯉のぼりの道」

古館 雄斗（宮古市）

【審査員選評】

綺麗な満開の桜の下、バイクの横でスタジャンの背中を見せる男性が写っています。この作品は自撮りとのことで、写っているのが古館さんご本人ということですね。鯉のぼりも舞い、見るからに気持ちよさそうです。

【撮影者コメント】

たまには自分を撮ってみました。

【撮影場所】

長沢川 桜つつみ



げんとうさんのういわ
「厳冬三王岩」 阿部 洋一（宮古市）

【審査員選評】

海が荒れ、毛嵐が立つ中で迎えるご来光。とても完成度が高く、もっと上位に入れても良いと思った作品です。できれば左下の朝焼けの岩を残し、左上隅の岩をカットするとさらに迫力が増したと思います。

【撮影者コメント】

気嵐が出るのを期待して撮影。

【撮影場所】

三王岩

奨励賞



ひけし としはじめ
「火消しの年始」

高橋 弘(花巻市)



【審査員選評】

裸祭を撮影した組写真です。2枚目の作品が目線もあり、動きもあって迫力があります。1枚目の作品も階段上りでそれなりに厳しい情景が伝わりますが、3枚目の作品が記念写真を横から撮影しただけなので残念でした。

【撮影者コメント】

裸参りは初めての見物。市中行列から境内へと一緒に移動しながらの撮影。神社の風格を見て、宮古地区一等の雰囲気を持つと知る。

【撮影場所】

八幡神社



「ティラノ、給水中」
きゅうすいちゅう

菊池 靖(宮古市)

【審査員選評】

とてもユニークで思わず笑ってしまいますね。さらに上位が狙えた完成度で、何より構成が見事で大漁旗で港町をイメージさせ、給水と書かれた場所で口を大きく開ける恐竜の滑稽さが相まって優れたスナップ写真になっています。

【撮影者コメント】

大漁旗がはためく港町を駆け抜ける恐竜のランナー。給水所で一杯の水を受け取る姿に、時空を超えた滑稽さと優しさと笑いの中に、どこか温かな人の営みを感じる一瞬でした。

【撮影場所】

末広町

奨励賞



「まほろばの夜明け」^{よあ}岩谷 眞（宮古市）

【審査員選評】

宮古にこんな魅力的な場所があったんですね。初めて見ました。このハマエンドウの花は津波で一度消滅したそうですが、見事に復活したそうです。オレンジに染まる夕陽を背景に構図・構成とも完成度の高い作品です。

【撮影者コメント】

津波に流されて消滅したと思っていたハマエンドウの花が咲くようになりました。

【撮影場所】

真崎海岸



^{あおのたきぎよこう}「青野滝漁港でリフレッシュ」

福士 麻奈美（山田町）

【審査員選評】

後ろ姿の人物をまん中に置く日の丸構図で、目線が人物に集中しています。海にせり出したコンクリートや 2 艘の船など左右のシンメトリーを意識させますね。さすがにセルフタイマーの自撮りだとは気づきませんでした。

【撮影者コメント】

10 秒セルフタイマー撮影で左右からの船と合わせてみました。

【撮影場所】

田老 青野滝漁港

奨励賞



あきまんかい
「秋満開」

鈴木 耕介（盛岡市）

【審査員選評】

紅葉した木々の葉と落ち葉に囲まれて楽しそうな母子写真です。でも二人を画面の下に配置し、背景のぼかし方やボケていてもわかる赤い鳥居をほぼセンターに置く見せ方など撮影テクニックもなかなかのものです。

【撮影者コメント】

この場所の美しい風景に魅了され、毎年この時期に家族の写真を撮っています。

【撮影場所】

区界兜神社

佳作



ふなとぎよひ
「船渡御の白」

高橋 弘(花巻市)



【審査員選評】

2枚目の作品が迫力もあって良いですね。まるで神輿と担ぎ手がこちらへ迫ってくるようです。ただ1枚目は単なる記念写真のようで、構図的にも空部分に余裕があるのに対し、足の切り方にも少し問題があります。

【撮影者コメント】

好天に恵まれての行事に、主役級の方々に協力を得て、モノクロ表現で躍動感を強調してみた。

【撮影場所】

宮古漁港



かくらまつりむすめ
「神楽と祭り娘」 北村 真一(宮古市)

【審査員選評】

御祭りの神楽の1シーンとのことですが、何となくほのぼのとした良い瞬間です。釣られたのは友人の娘さんとのことですが、お面をかぶる釣り主が知り合いなのか、いぶかしそうに見つめる少女の視線が面白いと感じました。

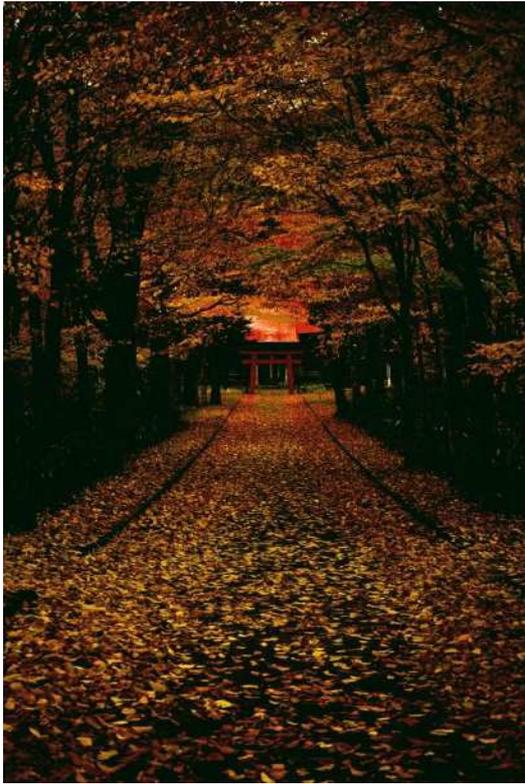
【撮影者コメント】

お祭りの神楽にて、友人の娘さんと突然の共演。ほのぼのした場面を切り取ることができました。

【撮影場所】

磯鶏公民館

佳作



「紅葉に染まる神社」 こうよう そ じんじや

山内 浩（宮古市）

【審査員選評】

兜神社は紅葉の名所のようなですね。真ん中の赤い鳥居に社殿の屋根も赤く、木々に紅葉する葉と敷き占めたように落葉した葉とで全体が共演しているようです。F5.6で撮影していますが、シャッタースピードに余裕があるのでF8以上は絞りたいところです。

【撮影者コメント】

紅葉に染まる神社の神秘的な光景を捉えました。

【撮影場所】

区界 兜神社



「撮れた？」 佐々木 正行（宮古市）

【審査員選評】

飛んでるカモメに手渡して餌やりをしている息子？を母親がスマホで写しているところをタイミングよくパチリしましたね。背景に浅瀬の海につかるたくさんの観光客が写ったのも賑わいが表現できて良かったです。

【撮影者コメント】

奥浄土ヶ浜でカモメ達におやつをあげる様子をスマホで撮影しているお嬢さん。うまく撮れたかな？

【撮影場所】

奥浄土ヶ浜

佳作



「^{さっそう}颯爽」 小和田 恭子（宮古市）

【審査員選評】

ツツジ越しに浄土ヶ浜を見下ろし、ちょうど一艘のボートが出ていくところをタイミングよく撮影しています。ご高齢ながら、デジタルカメラを使いこなし、この作品を撮られたことに驚きと敬意を表します。

【撮影者コメント】

つつじ満開時に初めて会いとてもうれしかった

【撮影場所】

浄土ヶ浜



「鮎掛けの頃」 増井 恒彦（宮古市）

【審査員選評】

これは狙っていたのでしょうか？ちょうど観光列車のひなび（陽旅）が鉄橋を渡るとき、鮎釣りをする2人の釣り人が川の中を歩いています。人物が入ることで、大きさの対比によって一層のスケール感が表現されています。

【撮影者コメント】

夏の午後、鮎を釣る人の上を「ひなび」が通過しました。閉伊川の風物詩として長く続いてほしいものです。

【撮影場所】

宮古市腹帯

佳作



「^{くれない}紅に^そ染まる^{ひで}日出」 澤口 健治（宮古市）

【審査員選評】

だるま太陽ならぬキノコのような形の太陽を背にウニ漁の漁場へと向かう小舟としっかり前を向くシルエットの漁師が印象的な作品です。進行方向を大きく空けることで、安定した構図になっています。

【撮影者コメント】

ウニ漁の早朝、紅に染まる中漁場へ向かう小舟の姿です。

【撮影場所】

真崎海岸



「はじめての「^{はなみ}お花見、^{ゆきあそ}雪遊び、^{つきみ}お月見」 菊地 繭子（宮古市）

【審査員選評】

3枚ともスマホでの撮影とのこと、最新のスマホは優秀ですね。健やかに育てほしいという親の願いが伝わります。記念写真だから顔を写すのは当然かもしれませんが、組写真としては月を愛でる後ろ姿の方が良かったですね。

【撮影者コメント】

失礼かと思いますが、スマホで撮影したものです。宮古市の豊かな自然に生まれ、健やかに成長してくれることを願い撮りました。

【撮影場所】

① 玄翁館 ② 区界 ③ 自宅

佳作



「^{ひかり}光を放つ、^{はな}ひとりの^{ぎんが}銀河」 菊池 靖（宮古市）

【審査員選評】

とてもボリューム感のある夏の銀河で、撮影場所の空の暗さを暗示しています。放射状に延びるヘッドライトの光が印象的ですが、車のライトが点灯していたためか、ガードレールの白が目立ってしまったのが残念です。

【撮影者コメント】

静寂の海辺に立ち、天の川を見上げるひとりの夜。懐中電灯の光は、まるで無数の星々と語り合うかのように空へ伸びていく。小さな光が、宇宙の大きな静けさに溶け込む瞬間を切り取りました。

【撮影場所】

田老 沢尻海岸



「標高 455m からの目線」 白間 正人（宮古市）

【審査員選評】

1 枚目のきれいな夕焼けに続いて 2 枚目の花火作品がハイライトですね。花火を見るのに標高が高すぎるかなと思いましたが、大きな花火にはなかなか良いスポットのようで、作品を拝見して月山展望台へ行ってみたくくなりました。

【撮影者コメント】

失標高 455m の月山見晴台から見た夕日と花火と天の川を入れて街の夜景撮影をしました。天の川から見下ろす花火は綺麗に見えるのかな？

【撮影場所】

月山見晴台



佳作



ふゆば やくしけいりゅう
「冬晴れの薬師溪流」岩谷 真（宮古市）

【審査員選評】

気持ちが良い青空の下で雪をかぶった溪流と遠くに白い早池峰山が見えています。願わくばもう少し木に雪が残っていれば良かったですね。手前の水流部分をきれいに见せるためにできればもう少しスローシャッターを切りたいところです。

【撮影者コメント】

冬晴れの早池峰山と薬師川溪流をパチリ。

【撮影場所】

川井 タイマグラキャンプ場



むすめ こうこう だいかつやく
「まつり娘は高校でも大活躍」

福士 麻奈美（山田町）

【審査員選評】

アイドルのようなとてもチャーミングな女性で、撮影場所から推測すると女子高生ですね。ただこれが何かのイベントなのか、まつり娘とは何を意味するのかなど疑問符が付きますが、被写体の力は際立っていました。

【撮影者コメント】

宮古市が大好きでイベントやお祭りに参加している息子の同級生。文化祭でも活躍している姿が愛らしい娘でした。

【撮影場所】

宮古北高等学校

U-18 特別賞



「^{つきよ}と^と月夜に溶けて」

竹山 椿姫（宮古市）

【審査員選評】

月明りを受ける波際に一人の少女が立ち、水に浸かりながら祈るようなポーズを取っています。写っている女子学生は同級生でしょうか？手元には何か光るものがありますが、仕草なども作者が演出したのかな？海、祈りとくれば震災への鎮魂と連想させますね。震災という自然の猛威と対比する穏やかで静かな海を逆光の月明かりで見事に演出しています。U-18に限らず、全体の部でもかなり上位にランクインする作品です。

【撮影者コメント】

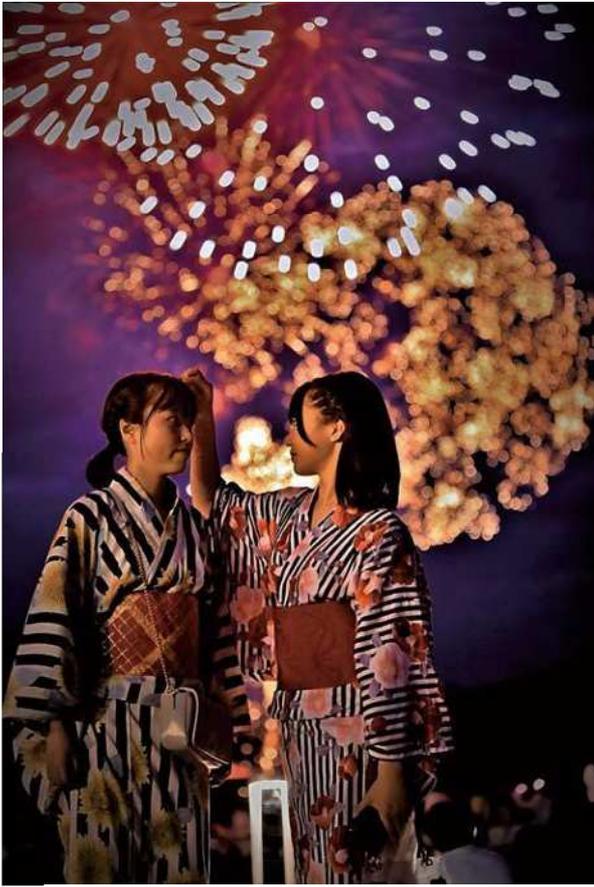
静かな月夜の下、海の波も風も穏やかに寄りそっているように見え、自然の厳しさの中にも優しさがあると思った。

【撮影場所】

藤の川

応募 テーマ

宮古市の豊かな自然、それに関わりながら生活する人の優しさ、強さ、または自然とともに生きる喜びを表現した作品



第11回藤田弘基賞「花火で再会」(組写真) 白間正人氏

作品 募集

第12回 藤田弘基写真コンテスト

募集期間

令和7年5月1日~10月31日

賞

藤田弘基賞	1点	賞金10万円及び副賞
U-18特別賞	1点	賞金 5万円及び副賞
優秀賞	3点	賞金 5万円及び副賞
奨励賞	7点	賞金 1万円及び副賞
佳作	12点	副賞

「U-18特別賞」
の賞金を増額!

18歳以下の方からのご応募を
お待ちしております!

※前回から応募サイズが「A4」限定となりました。ご応募の際にはご注意ください。



写真家 藤田弘基氏

1939年、東京都新宿生まれ。1966年、高校時代から憧れ続けたヒマラヤに初めて遠征する。1970年から75年までに全国を行脚し蒸気機関車の取材を行う。その後すぐ、ネパールヒマラヤに旅立ち、35年に渡り、ユーラシア大陸の山岳地帯で繰り広げられる数々のドラマを大型カメラで取材する。多くの写真集を出版すると同時に、写真展を開催。2001年、NHKスペシャル「星明かりの秘境カラコルム—山岳写真家藤田弘基の世界」が放映され話題となる。取材の合間をぬい、妻の童話作家・茂市久美子氏の生まれ故郷(旧新里村茂市)をたびたび訪れ、茂市を第二の故郷とし、宮古市の豊かな自然を撮影した。2012年9月没。



審査員

写真家 菊池哲男氏

1961年東京生まれ。立教大学理学部物理学科卒。山岳写真家として様々な山岳・カメラ雑誌やカレンダー、ポスターなどに作品を発表。主な写真集に『アルプス星夜』、『鹿島槍・五竜岳 一天と地の間に』、『四季白馬—アルプスの楽園—』、(共に山と溪谷社)、『山の星月夜—眠らない日本アルプス—』(小学館)など。東京都写真美術館をはじめ、各地で大規模な写真展を開催。東京都写真美術館収蔵作家。2007年、長野県白馬村和田野の森に菊池哲男山岳フォトアートギャラリーがオープン。フランスのアウトドアブランド「ミレー」のアンバサダーを20年以上務める。公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員、日本写真協会(PSJ)会員。ホームページ <http://www.t-kikuchi.com/>

■主催 藤田弘基写真コンテスト実行委員会
■共催 宮古市
■後援 宮古市教育委員会・NHK盛岡放送局・IBC岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ
岩手朝日テレビ・岩手日報社・宮古民友社・月刊みやこわが町・みやこハーバーラジオ

■応募先・問い合わせ先
藤田弘基写真コンテスト実行委員会事務局(宮古市新里総合事務所内)
〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1
Tel 0193-72-2111 Fax 0193-72-2116
<https://www.city.miyako.iwate.jp/>

第12回 藤田弘基 写真コンテスト募集要項

■テーマ

宮古市の豊かな自然、それに関わりながら生活する人の優しさ、強さ、または自然とともに生きる喜びを表現した作品

■応募方法

- ・A4サイズでプリントしたものを。(210mm×297mm)
 - ・画像データ・フィルム原板での応募は受け付けません。
 - ・応募数は、1人5作品までとします。
 - ・応募票に必要事項を記入し、作品の裏面中央に、作品の上下と同じ方向になるように、セロテープで軽く貼付してください。(応募票はコピー可)
 - ・組写真の応募は、1人2作品までとします。
- また、組写真は、1作品3点以内で、左から順に並ぶよう構成してください。タテヨコ作品を織り交ぜての応募も可とします。入賞作品は額に入れて展示するため、応募の際は、作品をテープ等で貼りあわせないでください。応募票は、1枚目の写真の裏に貼付、2枚目以降は、それぞれ写真の裏に作品名と順番を明記してください。
- ・事務局へ郵送、または直接提出してください。郵送の際は、作品が傷まないように厚紙に挟んで丈夫な封筒に入れてください。
 - ・作品の返却を希望する場合は、応募票の返却希望に○印を記入してください。郵送での返却を希望する場合は、定額小為替1,000円分を同封してください。ただし、入賞作品は返却しません。
 - ・応募資格の制限はありません。

■募集期間

令和7年5月1日～令和7年10月31日(当日消印有効)

■応募上の注意

- ・作品は、他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- ・作品は、宮古市内において令和5年11月以降に撮影されたものに限ります。
- ・著作権や肖像権が生じる写真については、管理者または本人から了承を得たうえで応募してください。また、被写体が未成年の場合は、親権者等(法定代理人)の承諾が必要です。第三者から権利侵害や損害賠償等の苦情、異議申し立てがあった場合、実行委員会は一切の責任を負いません。
- ・合成写真、過度な加工をした写真は不可とします。
- ・無人飛行機(ドローン等)により撮影した作品は不可とします。
- ・U-18特別賞は、令和7年10月31日時点で18歳以下の応募者を対象とします。
- ・未成年の方は親権者等(法定代理人)の同意が必要です。未成年の方が応募された場合は、親権者等(法定代理人)の同意が得られているものとみなします。

■賞の内容

藤田弘基賞 1点 賞金10万円 及び 賞状・副賞
U-18特別賞 1点 賞金5万円 及び 賞状・副賞
優秀賞 3点 賞金5万円 及び 賞状・副賞
奨励賞 7点 賞金1万円 及び 賞状・副賞
佳作 12点 賞状・副賞

※入賞は、1人2点までとします。

■入選の発表

- ・審査会実施後、直接通知します。
- ・市のホームページに入選作品・作者名を掲載します。

■表彰

入賞者に後日ご案内します。

■入選後について

- ・応募作品の著作権は、撮影者に帰属します。
- ・主催者は、入選作品の画像データをお預かりして、主催者が催す展示会のほか、本コンテストの広報活動や市のパンフレットなどに優先的に無償で使用する権利を保有します。(使用にあたっては撮影者の氏名表示を行います。)
- ・なお、画像データが提出されなかったときは展示会等において展示されない場合があります。
- ・作品は、イーストピアみやこや宮古市新里生涯学習センターなどで展示します。

■主催 藤田弘基写真コンテスト実行委員会

■共催 宮古市

■後援

宮古市教育委員会、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、岩手日報社、宮古民友社
月刊みやこわが町、みやこハーバーラジオ

■応募先・問い合わせ先

〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2-112-1
藤田弘基写真コンテスト実行委員会事務局(宮古市新里総合事務所内)
TEL 0193-72-2111 FAX 0193-72-2116
<https://www.city.miyako.iwate.jp/>

きりと線

作品名(フリガナ)	※他のコンテストに応募していない作品に限ります			
組写真のときは枚組(最大で3枚)	枚組	返却希望(希望の場合右欄に○)	郵送	直接受取り
氏名(フリガナ) ※未成年の場合 親権者等氏名も記入	親権者等氏名()	生年月日	T・S H・R	年 月 日 (歳)
作者の住所・電話番号	〒 都・道・府・県	市・区・郡	町・村	電話() ー ※未成年の場合、親権者等の電話番号を記入
撮影場所	(できるだけ詳しく)			
撮影日時	令和 年 月 日	午前・午後	時	
使用カメラ・レンズ				
露出	絞り:	シャッター速度:	ISO:	
ホワイトバランス			フィルム	
このコンテストを どこで知りましたか	宮古市ホームページ・市広報・ポスター、チラシ・知人の紹介・その他()			
作品に対するコメント				

※多数応募するときは、この応募用紙をコピーしてお使いください。
※上記項目は全て記入願います。

ご確認ください! 応募作品のサイズ A4 (第11回コンテストから変更)